

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 **通学・通信**）

事業者名： 社会福祉法人 愛寿会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画	
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数	実施内容
1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解	6 時間
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	6
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	3
3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本	6 時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	1
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	2
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	1
(4) 介護職の安全		(4) 同左	2

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害福祉制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6 時間	
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6 時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	3
(3) 同左	3
5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	3
6 老化の理解 6 時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	3
7 認知症の理解 6 時間	
(1) 同左	1
(2) 同左	2
(3) 同左	2
(4) 同左	1

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 講義及び演習:介護保険制度について講義を行った後、グループに分かれて、デイサービス利用者の事例を用いて、その利用者のレセプト計算を行う。	
(2) 講義のみ	
(3) 講義のみ	
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 講義及び演習:コミュニケーションの意義や技法などを学ぶため、利用者役と介護者役に分かれた2人一組のロールプレイングを行う。	
(2) 講義のみ	
6 老化の理解	
(1) 講義及び演習:こころとからだの変化を体感するために、高齢者疑似体験グッズを用いて階段昇降などを行う。	
(2) 講義のみ	
7 認知症の理解	
(1) 講義のみ	
(2) 講義のみ	
(3) 講義及び演習:複数の具体的な事例を示し、認知症利用者への対応をグループで検討し発表する。	
(4) 講義のみ	

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

8 障害の理解		3 時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術 75時間		
ア 基本知識の学習		10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50～55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解		3 時間
(1) 同左	1	
(2) 同左	1	
(3) 同左	1	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間		
ア 基本知識の学習		10 時間
(1) 同左	3	
(2) 同左	3	
(3) 同左	4	
イ 生活支援技術の講義・演習		55 時間
(4) 同左	6	
(5) 同左	6	
(6) 同左	5	
(7) 同左	5	
(8) 同左	5	

8 障害の理解		
(1) 講義のみ		
(2) 講義のみ		
(3) 講義及び演習：複数の具体的な事例を示し、障害の受容についてグループで検討し発表する。		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		
ア 基本知識の学習		
(1) 講義のみ		
(2) 職として、生きがいをどのように支援していけばよいかをグループ単位で話し合う。		
(3) 講義及び演習：脈拍、血圧、体温、呼吸数等のバイタルチェックを行う。		
イ 生活支援技術の講義・演習		
(4) 講義及び演習：ズボンゴムのテープ交換、裾上げやボタン付けなど家事援助の実技演習を行う。		
(5) 講義及び演習：家庭内に多い事故やバリアフリーについて学び、障害者にとって理想的な居住環境について、グループごとに発表する。		
(6) 講義及び演習：洗顔・口腔ケア・整髪・髭剃り・爪切りなどの実技演習を行う。		
(7) 講義及び演習：ベッドと車いすを使用した移乗介助、段差やスロープを利用した車椅子の実技演習を行う。		
(8) 講義及び演習：利用者と介護者に分かれ、嚥下機能障害者の食事介助方法の実技演習を行う。		

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	6	(9) 講義及び演習：全身浴、足浴、手浴、清拭などの実技演習を行う。
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10)同左	5	講義及び演習：2人一組になり、ホータフルトイレで(10)の排泄介助方法、紙おむつ交換の実技演習を行う。
(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11)同左	6	(11) 講義及び演習：介護用寝具を活用したベッドメイキングの実技演習を行う。
(12)死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	(12)同左	3	(12) 講義のみ。
(実習)※ (50～55時間中12時間以内)	(実習)※ 8 時間		(実習)※
介護実習 8 時間	介護実習 8 時間	8	各施設で実習を行う。
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習 10 時間		ウ 生活支援技術演習
(13)介護過程の基礎的理解	(13)同左	5	(13) 講義及び演習：事例に基づき、個別援助計画の作成演習を行う。
(14)総合生活支援技術演習	(14)同左	5	(14) 講義及び演習：2つの事例に基づき一連の介助を行い技術の習得度の評価を受ける。
10 振り返り 4 時間	10 振り返り 4 時間	4 時間	10 振り返り
(1)振り返り	(1) 同左	2	(1) 講義及び演習：研修を通じて学んだこと、今後も継続して学ぶべきことを考え、一人ずつ発表する。
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	2	(2) 講義のみ。
追加カリキュラム			
計 (130 時間)	計 130時間)		

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。